

平成16年度 愛知中学校入学試験問題

国 語

注 意

1. 「始め」の合図があるまでは、この「注意」をよく読んでいてください。
2. 国語の試験時間は50分です。問題は□・□です。
3. 答えはすべて解答用紙に記入してください。
4. 解答用紙には必ず氏名、受験番号を書いてください。
5. 問題の内容についての質問には応じません。
印刷のはっきりしないところがある場合には、だまって手をあげて
係の先生にきいてください。
6. 解答に字数制限がある場合は、句読点を一字としてかぞえます。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

家庭や学校で体験されるべきとても大事なことについてもう少し考えてみよう。

学校について友人と話したとき、彼がおもしろい問いをぶつけてきた。幼稚園^①じゃお歌とお遊戯^{ゆうぎ}ばかりだったのに、どうして学校に上がるとお歌とお遊戯が授業から外されるんだらうというのだ。

小学校に入ると音楽の時間に楽譜^{がくふ}の読みかた、笛のふきかた、合唱のしかたは習った。体育の特別授業として一学期に一、二回、フォークダンスの練習もした。が、どちらの時間も生徒だったころのわたしはてれにでれた、あるいはふてくされた。なにかはずかしかったからである、おもしろくなかったからである。ひとといっしょに歌うのは楽しいはずである。おどるのも楽しいはずである。ついこのあいだも見物してきたのだが、知人がやっている阿波おどり^{あわおどり}の連^{つれ}の練習会を見ているだけでもそれは分かる。みんな同じようにおどりながら、みんななどことなくちがう。勝手におどっている。音楽や体育の時間は、音と動作をきっちりそろえることが要求される。それがつまらない理由だ。もともとみんなで同じような動作をすることは楽しいのだが、同じ動作をするのはいやなのだ。ファッションだってそう。みんなよく似た服装をしているが（していないと不安だが）、同じ服装は絶対にいやなのだ。人間というのは

まったくの孤独^{こどく}にたえられるほど強くないが、共通性^{きょうせうせい}のなかに埋没^{まいぼつ}して安心するほど無神経でもないのだ。

幼稚園では、いっしょに歌い、いっしょにお遊戯をするだけでなく、いっしょにおやつやお弁当も食べる。他人の身体に起こっていることを生き生きと感じる練習だ。そういう作業がなぜ学校ではケイシ^①されるのか、不思議な感じがする。ここで他者への想像力は、幸福の感情と深くむすびついている。

生きる理由がどうしても見当たらなくなったときに、自分が生きるにあたいする者であることを自分に納得^{なつとく}させるのは、思いのほかむずかしい。生きるといことが楽しいものであることの経験、そういう人生への肯定^{きやうてい}が底^{そこ}にないと、死なないでいることを自分で肯定できないものだ。お歌とお遊戯はその楽しさを体験するためにあつたはずだ。

長井均は最近のチヨシヨ^②のなかでこう書いている。「子ども^{こども}の教育において第一になすべきことは、道徳を教えることではなく、人生が楽しいということ、つまり自己の生が根源において肯定されるべきものであることを、体に覚えこませてやることである」と。あるいは、幼児期に不幸な体験があつたとして、それに代わるものを、それにたえられるだけの力を、学校はあたえうるものでなければその存在理由はない。だれかの子として認められなかった子どもに、その子を「だれか」として肯定^③することで、存在理由をあたえうるのでなければ、その存在の意味がない。

④

近代社会では、ひとは他人との関係の結び方を、まずは家庭と学校という二つの場所で学ぶ。養育・教育というのは、共同生活のルールを教えることではある。が、ほんとうに重要なのは、ルールそのものではなくて、むしろルールがなりたつための前提がなんであるかを理解させることであろう。社会において規則がなりたつのは、相手も同じ規則に従うだろうという相互の期待や信頼がなりたつているときだけである。信頼がどこかで成立していないと、社会は頭の中で考えるだけの不安定なものになる。

幼稚園でのお歌とお遊戯、学校でのキユウシヨク。みんなでいっしょに身体を使い、動かすことで、他人の身体に起こっていること（つまり、直接にはわからないこと）を生き生きと感ずる練習を、わたしたちはくりかえしてきた。身体に想像力を備わせることで、共存の条件となるものはぐくんできたのである。

（鷺田清一の文章による。一部改変）

※ 連 おどりをするひとまとまりのグループ

問一 〰️線部①②③のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ——線部①「幼稚園じゃお歌とお遊戯ばかりだったのにく外されるんだらう」とありますが、幼稚園と

小学校のちがいにについて、後の問いに答えなさい。

（1）幼稚園では「お歌とお遊戯」は、何の練習になっ

ていると述べていますか。本文より二十五字でぬき出しなさい。

（2）小学校での「音楽や体育の時間」では、どんなことが求められていると述べていますか。本文より十五字でぬき出しなさい。

問三 ——線部②「共通性のなかに埋没して安心するほど無神経でもないのだ」とありますが、この内容をよく示している部分を二か所さがし、それぞれ十五字以内でぬき出しなさい。

問四 ——線部③「お歌とお遊戯はその楽しさを体験するためにあつたはずだ」とありますが、——線部③の中の「その」があらわす内容を、本文から八字でぬき出しなさい。

問五 〰️線部①「肯定」の対義語を漢字で答えなさい。

問六 〰️線部②「その存在の意味がない」とありますが、その部分の「何は」に当たる語句を答えなさい。

問七 ——線部④「近代社会では、ひとは他人との関係の結び方を、まずは家庭と学校という二つの場所で学ぶ」とありますが、次の文は、「家庭と学校」の役割を解説したものです。□に本文の中から、最も適切な表現を入れて完成させなさい。

家庭と学校は、人と人との関係から を得ることによって、きまりがうまくはたらくことを教えなくてはならない場所である。

問八 —— 線部⑤ 「共存の条件」とありますが、その内容として、最も適当なものを次から選び、符号で答えなさい。

- ア みなと同じ体験を通して我慢することを知ること。
- イ 仲間との関係の結び方を学ぶこと。
- ウ 共同生活のルールにしたがうように努力すること。
- エ 他を理解し思いやる心をもつこと。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この夏のはげしきはことさら年寄りの身にこたえたのか、秋口にいくたりかの知人がつづけていき、そのなかに私どもの母もまじっていた。享年八十一歳。三年ほどまえから口もきけなくなっていたし、文字通り静かに老いおとろえていったあげくのその日なので、いまさら別れのどうのということもないけれど、こうして現実①に目のまえの寝たきりのすがたから解き放たれてみると、その分だけ若くしたのしげだったかつての面影がよみがえってくることもたしかなのだ。思い出を整理するにはよいキカイである。この母と、三つ年上で三年まえにおなじく八十一で逝つ

た、きつかり一九〇〇年生まれのお父と。二人のとのえておいてくれた環境に私は生まれ、育ち、人生最初のさまざまなものたちにそこでめぐりあった。「宮沢賢治」も、そのようにして私のまえにもたらされたのだった。

明治二十九年生まれの詩人と、おなじく三十三年、三十二年生まれの父母と。生い立ちこそちがえ、彼らとともに日清・日露の両戦争の間に生まれ、その意味ではまさしく同世代②といつてよい。

父と母とが結ばれて家を持ったのは、芥川龍之介の自殺したのとおなじ、昭和二年。ちなみに岩波文庫はこの年に発刊されている。春秋社の大思想全集とか新潮社の世界文学全集とか、戦前生まれにはなつかしいシリーズの刊行のはじまったのもほぼこのころのことだ。

筑摩の全集版の年譜によれば、賢治はこの前年に農学校の教職をしりぞぎ、僻地の農民のために独自の活動をはじめており、それから死にいたるまでの六年間、いつときもむだもならぬはりつめた思いにかられていたはずである。

そのひまに東京の片すみのが家では、たてつづけに女の子が三人も生まれた。資産もない天涯孤獨の英文学士と、その名も自由〇〇という実験校を出たばかりの妻とのあいだに、着実にふえつづけるものは、むすめと、そして本ばかりだった。

年譜をみているうちに、同じ昭和二年のところでひとつ、なつかしい名前にゆきあつた。「十一月 親友藤原嘉藤治

の結婚すべてをとり行う」とある。当時花巻はなまきにあった女学校の音楽の先生だったこの藤原さんが、のちに偶然父どうりょうの同僚として、わが家にもあらわれることになるのである。

「フジワラさんはミヤザワケンジのお友だちなんですよ」
幼い姉妹は母のさす物静かな客人を畏敬おそいの目でみつめた。ピアノをよくする方であった。

それからまもなく、わが家の玄関げんかんの左手の壁かべに一幅の掛け軸じくがかかげられた。高村光太郎の筆になる、あの「雨二モマケズ」の詩碑しひの拓本複製たつほんである。父が出張のついでに花巻を訪れたとのことで、とすれば当然藤原さんもごいっしよではなかったか。

私はしかし、ともすれば有形の思い出にばかりこだわらずにいるのかもしれない。わが内なる宮沢賢治について語れとならば、それはそれでまた別の語りようもある。むしろそれをコイこいにさげたい思いがこの心のどこかにある。

童話集『注文の多い料理店』の有名な序文を、あらためてここに書き写しておこう。

わたくしたちは、氷砂糖こほりとうをほしくらいもたないでも、きれいにすきとおった風をたべ、桃ももいろのうつくしい朝の日光をのむことができます。

またわたくしは、はたけや森もりの中で、ひどいぼろぼろのきものが、いちばんすばらしいびろろびろろや羅紗らしゃや、宝石ぎョウしやくいのきものに、かわっているのをたびたび見ました。

わたくしは、そういうきれいなたべものやきものをすきです。

これらのわたくしのおはなしは、みんな林や野はらや鉄道線路てつどうせんやらで、虹にじや月あかりからもらったのです。

ほんとうに、かしわばやしの青い夕方を、ひとりで通りかかったり、十一月の山の風のなかに、ふるえながら立ちたりしますと、もうどうしてもこんな気がしてしかたないのです。ほんとうにもう、どうしてもこんなことがあるようでしたかたないということ、わたくしはそのとおりに書きたまえます。

ですから、これらのなかには、あなたのためになるところもあるでしょうし、ただそれっきりのところもあるでしょうが、わたくしには、そのみわけがよくつきません。なんのこゝとだか、わけのわからないところもあるでしょうが、そんなところは、わたくしにもまた、わけがわからないのです。

けれども、わたくしは、これらのちいさなものがたりの幾いくきれかが、おしまい、あなたのすきとおったほんとうのたべものになることを、どんなにねがうかわかりません。

すきとおるたべものばかり偏食的へんしよくにたべさせられた子どもは、さいごには透明人間とうめいじんかんに近づけるだろうか。ここにふくまれているいくつかの思い、「ほんとうにもう、どうしても」宮沢賢治以外の何物でもない独特のことばやいい回しを、十にもなるやならずやでのみこまされてしまった子

⑥ どもたちが、どうしてほかの人間とおなじであつてよいわれがあるう。その意味でわたしなどはまれにみるめぐまれたご身分かもしれないのだ。

東京に生まれ東京に育つたむすめがいつのまにか北信濃の山里に居をもとめて移り住んでいる。[※]イーハトーヴならずとも、すこしでも「青く、つめたく、すぎとおるような」^{※さげん}気圏により近いところへ——、そんな志向にも、^⑦見えないそのひとのはげましがひよつとしてどこかで働いていないともかぎらないのである。

(矢川澄子の文章による。一部改変)

※ 享 年 死んだときの年れい

農 学 校 農業を専門に教える学校

天涯孤独 身内の者が一人もいなくて独りぼちなこと

英文学士 大学で英語を学び卒業した人に与えられる呼び名

畏 敬 おそれうやまうこと

拓 本 石などに刻まれた字や絵を紙にすり出したもの

びろうど やわらかくて表面につやのある織物

羅 紗 羊の毛で織つた厚手の織物

イーハトーヴ 宮沢賢治が描いた理想郷

気 圏 地球をとりまく大気が存在するはん囲

志 向 ところの向かうところ

問一 〰〰線部①く④のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 〰〰線部「ことさら」は、どのことばにかかっていきますか。——線部アくエの中から正しいものを一つ選び、^{ふじょう}符号で答えなさい。

問三 ——線部①「その分だけ若くてたのしげだったかつての面影がよみがえってくる」とありますが、「その分だけ」とはどういうことですか。最も適当なものを次から選び、^{ふじょう}符号で答えなさい。

ア 年老いた母の死が、例年にない夏のきびしさの中で訪れたこと。

イ 長い看病の末に母が死んだことで、ほっとした気持ちがあつたこと。

ウ 母の残した^{えいきまづ}影響が大きくて、母の面影をたどるよりしかたがないこと。

エ 最期^{さいご}のことばも聞けずに母が死んでしまい、残念な気持ちが強いこと。

問四 ——線部②「そこ」の指し示す部分を、文中よりぬき出しなさい。

問五 作者「私」の両親が、読書好きであることを最もよくあらわしている一文をぬき出し、最初の五字で答えなさい。

問六 ——線部③「ほしいくらいもたないでも」とありますが、その内容として最も適当なものを次から選び、^{ふじょう}符号で答えなさい。

ア おいしいものを食べず我慢^{がまん}しても

イ いっぱいもっていても

ウ 美しい自然に満足しなくても

エ 思うほど十分には手にしなくても

問七 — 線部④ 「はたけや森の中でくたびたび見ました」とありますが、このようなたとえを使って、宮沢賢治は「何を」「どのような思い」で見つめていることがわかりますか。最も適当なものを次から選び、符号で答えなさい。

ア 野に出て一生懸命に働く貧しい農民の姿を、美しく尊いものとして見つめている。

イ 自分の指導した農民をとりまく美しい自然を、感謝と感動をもって見つめている。

ウ 実際に目にする新しい農業のやり方を、童話の世界に置きかえて見つめている。

エ 田畑や森の中で不思議な体験を与えてくれる農民を、豊かな感性を通して見つめている。

問八 — 線部⑤ 「すきとおるたべものばかり偏食的にたべさせられた子ども」というたとえは、どのような子どものことですか。最も適当なものを次から選び、符号で答えなさい。

ア 両親の好みの本だけを読んで育った子ども

イ 自然の中でのびのびと育った子ども

ウ 賢治の童話に大きな影響を受けた子ども

エ 美しいもの以外は受けつけない子ども

問九 — 線部⑥ 「どうしてほかの人間とおなじであつてよいいわれ（わけ）があるう」とありますが、この文の後には省略された表現があります。最も適当な

のを次から選び、符号で答えなさい。

ア いや、おなじでないわけがない。

イ いや、おなじであるはずがない。

ウ いや、おなじであるにちがいない。

エ いや、おなじであつてよい。

問十 — 線部⑦ 「見えないそのひと」と同じ意味で用いられている、最も適切な部分（語句）を、ちょうどよい長さでぬき出しなさい。

問十一 本文を通して読み取れる作者の思いとして、最も適当なものを次から選び、符号で答えなさい。

ア 宮沢賢治は、私にとつて父母姉妹につながる有形の思い出の中にしまっておきたい作家だ。

イ 宮沢賢治の童話ばかりを読んだおかげで、美しい北信濃の地に住むこととなった。

ウ 宮沢賢治の本を幼いころからよく読んだ私は、こちらの豊かさを教えられた。

エ 宮沢賢治の童話集『注文の多い料理店』の序文は、今の私をささえるたった一つの文学だ。

問十二 次の作品の中から、宮沢賢治の作品ではないものを二つ選び、符号で答えなさい。

ア 手ぶくろを買いに

イ 風の又三郎

ウ 銀河鉄道の夜

エ よだかの星

オ 赤いろうそくと人魚

カ セロ弾きのゴーシュ